

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000063
法人名	有限会社オアシス
事業所名	グループホームぽかぽか(ふたみ)
所在地	伊予市双海町大久保字石の久保甲974-8
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 21 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 2 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ホームは家庭の延長」をモットーに利用者が今まで当たり前のようにやっていた家事・掃除・洗濯等続けながら生活が出来るよう、職員は利用者の不可能な部分のみを援助し見守っています。敷地内の畑で野菜を育て、収穫し、調理して食べる。畑仕事の得意な方たちはとても生き生きされています。季節ごとにクラフト作品を作成し展示、ホーム内を飾りつけし、季節感を感じていただいております。地区の文化祭に作品を出展したり、地域の行事に参加させて頂き、地域の方々との交流を持っています。ホームのベランダから眺める海と夕日はとても美しく、恵まれた自然環境の中で、利用者さんはゆったりと穏やかな生活を送られています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海と山の自然に恵まれた高台にある事業所から、優雅な景色やきれいな夕日を眺めることができる。「いつもここにぽかぽか家族」という理念に沿って、ゆったりと住み慣れた地域環境の中で、人としての尊厳を大切に支援している。また、馴染みのスタッフと生活を共にして、利用者には何かの役割をもってもらい、やりがいを感じられるような自立支援に取り組んでいる。調理の専属職員や夜勤に准看護師、畑で農作物を育てる担当職員を置くなど、職員の負担軽減に努めるなど管理者のきめ細かい配慮が伺える。介護計画は、内容や様式、記録方法など改善点を見つけ柔軟に利用者の視点を考え、分かりやすく工夫されている。職員は利用者から知らないことを学んだり、利用者を人生の先輩として敬いながら接しており感謝されることもある。できることはどんなことでも頑張ろうとする管理者は職員からも信頼されており、今後もサービスの質の向上が伺える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームぽかぽか(ふたみ)
(ユニット名)	なのはな
記入者(管理者)	
氏名	徳田 茂美
評価完了日	平成 26 年 1 月 21 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念に基づき、住み慣れた地域で入所前と変わらない生活を送り続けられることを第一に考え、職員が一丸となって取り組んでいます。	
			(外部評価) 代表者と管理者が中心になり理念を作成している。理念に沿って、利用者に自立が促せるよう、役割やできることが継続できるよう支援している。日中には、利用者がくつろぐ居間のテレビは点けず、一人ひとりに有意義な時間が持てるよう配慮しており、職員は利用者を温かく見守り、待つ心を大切にして支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 毎年、地域でのイベント(運動会・文化祭・夏祭り・秋祭り等)に積極的に参加させて頂き、地域の方々とのつながりが途絶えぬよう努めています。 また、ホームの行事に地域の方をお招きするなど交流を深めています。	
			(外部評価) 地元出身の利用者が多く、地域の文化祭や運動会などに参加して交流をしている。職員が地区の道路整備などに参加し、自治会との関係づくりに努めている。管理者と職員は小さなことでもできることから地域との関わりを深めたいと前向きに考え、散歩時に出逢った人や農作業をしている人とあいさつをしている。今では、地域住民が野菜の差し入れをしてくれることもある。また、事業所のそうめん流しや餅つき大会などには、近隣住民に参加を呼びかけ続けている。子供獅子舞や地域のカラオケボランティアなどの訪問もある。	
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々が気軽にホームに来て頂けるような環境作りに努めています。ホームでの行事に地域の方をご招待し実際に見て頂き理解を深めて頂く機会を設けています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、なるべく利用者と直接関わりを持てる ような議題に配慮し開催しています。(利用者を家族が一 緒に防災頭巾を作成)また、地域の方々との交流を重視し 意見やアドバイスを頂ける機会とし、運営に活かしていま す。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、社協職員、消防 署員、市担当者等の参加を得て開催している。職員が多く 参加しており、会議の役割分担をしている。会議では、防 災訓練や防災頭巾の作成、成年後見制度の勉強会、そうめ ん流しなどを一緒に開催する工夫をしている。家族の参加 も多く、事業所の様子が参加者に分かるように工夫をして いる。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議等にご出席頂き、ホームの活動を報告し意見 やアドバイスを頂いています。必要時には連絡を取り、相 談するなどしています。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報告や 意見交換をしている。市の福祉課や長寿介護課、地域包括 支援センターの職員と相談しながら、事業所の課題解決の ために助言をもらっている。今後、利用者の成年後見制度 の申し立てのため協力をお願いする予定である。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ホームは身体拘束排除宣言を掲げ取り組んでいます。 内部研修のテーマに取り上げ、職員の理解を深めていま す。現在、対象者はおりません。</p> <p>(外部評価) 玄関に「身体拘束排除宣言」を掲げ、勉強会や話し合いを 行い、職員全員で理解して身体拘束をしないケアに組み 組んでいる。日中には玄関を開放し、夜間のみ防犯面を考 え施錠している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 内部・外部の研修への参加を促し、学ぶ機会を作っています。職員同士で注意観察をしあい、防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 司法書士の先生を招き勉強会を開催したり、学ぶ機会を作っているが、内容が難しく職員の理解度は不十分である。引き続き継続して行きたい。必要時には、関係機関との連携を図り、活用して行くように努めます。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族・ご本人を交え十分な時間を確保し、聞き取り・説明を行うよう努めています。改定等があった場合は、きちんと説明した上で、同意を得るようにしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会の設置はないが、運営推進会議に出席頂いたり面会時に声掛けをし、要望・意見を伺うようにしています。意見・要望は運営に活かせるよう努めています。	
			(外部評価) 面会時や電話で家族に声かけをし意見を聞くように努めている。介護保険制度の改正など利用料金の改定時に、家族へ送付した文書への問い合わせがあったことがある。日々の生活の中で利用者から意見を聞くよう努めているが、ほとんど意見はない。また、家族にはぽかぽか通信や手紙を送付し、事業所での利用者の様子を報告している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) スタッフ会等を利用し、職員からの意見や提案を聞く機会を設けています。又、普段から気軽に個々が相談・提案のしやすい雰囲気作りに努めています。職員からの意見等は運営に反映させています。</p> <p>(外部評価) 2か月に1回、法人内の別のグループホーム職員と合同でスタッフ会を開催しており、職員は意見や要望、気づきやアイデアを伝えることができる。日頃から管理者は職員が話しやすい雰囲気づくりをしている。職員から出された意見は、運営に反映できるよう努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の資格取得に協力し、働きやすく学びやすい勤務体制に努めています。職員の努力により給与の見直しも検討している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員の資格取得に協力し、研修等への参加も促している。しかし、本年度は外部研修への参加が出来ていない。毎月、内部の研修を行ない知識向上を図っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 同地区の施設での行事に参加させていただき、活動内容を学ばせて頂いたりしています。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前に本人・家族より不安・要望を聞き取り、入居後も、利用者の声に耳を傾け、何でも話して頂けるような、関係が築けるように努めています。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時や面会時に、ご家族から要望・意見を伺ったり機会があるごとに耳を傾けるように努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前の医療関係者・ケアマネ・担当看護師等からの情報をもとに、家族等を交え担当者会議を開催し、今必要としている支援を見極めるようにしています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の能力を尊重し、不可能な部分のみ援助する。「ホームは家庭の延長である」の考えを重視し毎日の生活を支援しています。利用者同士で助け合う場面も見られ、良い関係が築かれています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) かかりつけ医の受診にはご家族の協力で行っている。家族との関係を密にし、共に本人を支えていく関係を築いています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 積極的に地元の方が集まる行事に参加させて頂き、地域住民・顔なじみの方々との交流が途絶えないように支援しています。 (外部評価) 地元出身の利用者が多く、地域の運動会や同地域にある特別養護老人ホームの納涼祭などの行事に参加し知人と出会うよう支援している。友人や知人等が面会しやすいよう快い対応をしている。高齢者を対象とした公民館の教室などに参加し、新しい馴染みの関係もできている。家族の協力も得ながら馴染みの場所や関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士のトラブルは時折ありますが、その都度、職員が間に入り、孤立せず共に支え合えるよう支援しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も必要に応じて連絡を取り、相談して頂けるようにしています。長期入院により退所された方には、再入所の検討も行っています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の声に耳を傾け、希望や意向を聞き取るように努めています。得た情報は職員間で共有しケアに活かしています。 (外部評価) 利用開始時に利用者や家族から思いや意向を聞いている。日々の会話の中で利用者から思いや意向を把握するよう努めており、利用者と1対1となる居室や入浴時等に、「外出したい」などの希望を言われることが多い。利用者の希望に応えられるよう些細なことでも把握に努め、利用者にとってより良い方法を職員間で検討し取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を利用し、聞き取りを行っています。入所後も本人・家族からの情報収集に努め、情報は職員間で共有するようにしています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 注意深く観察をし、状態の変化に素早く気づけるように努めています。個々の生活リズム・パターンを把握するように努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族の意向を確認し、計画作成担当者・ケアマネ・看護師・担当職員がそれぞれ意見を出し合い、話し合い介護計画を立てている。介護担当者を交えモニタリングを行い、現状に応じた介護計画を作成しています。	
			(外部評価) 家族の意向を反映して、介護支援専門員が職員と話し合い介護計画を作成し、家族に確認し同意を得ている。利用者毎の担当者が毎日計画の実施状況を分かりやすく記録し、月1回職員会議でモニタリングを実施している。6か月に1回、カンファレンスを実施し見直しをしている。また、状態の変化時には、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の普段と違う行動や、気づき、サービスを実施しての結果・様子等を記録し、介護計画の見直しに活かしています。情報は申し送りノートを利用し全員が共有できるようにしています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の個々の能力に合わせて、共通サービスの日課に沿って生活して頂いています。新たな問題が出た時は、その都度、職員間で話し合いケアに取り組んでいます。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地元在住の職員が多く勤務しており、地域で行われる行事の情報は常に入手できる。ホーム以外での活動の場を提供し地域と触れ合いながら豊かな生活が築けるよう支援しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 嘱託医の往診は月2回・必要時に歯科医の往診を依頼、外 科等の受診は利用者それぞれのかかりつけ医を家族の協力 のもと行っています。急変時には嘱託医に報告し適切な医 療が受けられるよう支援しています。</p> <p>(外部評価) 利用開始時に利用者や家族に説明し、協力医がかかりつけ 医となっている。月2回協力医の往診があり、利用者の健 康管理をするほか、急変時にも対応できる協力体制が整っ ている。専門医の受診は家族の協力を得ているが、必要に 応じて看護師が同行している。また、必要に応じて歯科医 が往診して対応している。精神的に落ち込んでいる利用者 には専門医を受診するほか、家族に面会してもらうようお 願いし表情が一段と良くなる場合もある。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護師は24時間オンコール体制をとっており、昼夜問わ ず、急変時に対応できるようにしています。異常を感じた 時にはすぐに看護師に状態報告し看護師の指示のもと、適 切な受診・看護を受けられる体制を整えています。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 介護支援専門員・看護師を中心に、医療機関との連携を図 り、情報交換を行っている。入院中は、電話や面会し、関 係者より病状確認を行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 看取りケアの事例は2件ありました。家族・嘱託医・看護 師・専門職を中心に話し合いをし、本人・家族の意向を尊 重しホームで出来ることを説明し納得の上、実施しまし た。情報・ケア方針を職員間で共有し取り組みました。初 めての看取りの後には、職員に対するアンケートを行い不 安・反省点等の聞き取りを実施したり職員に対するケアに も注意を払っています。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する基本指針を作成しており、利用開始前に家 族の希望があれば看取り支援をすることを説明している。 今までに2人の看取り支援を経験しており、終末期には看 護師と管理者が交互に夜勤をするなど、職員の負担軽減に 努めている。また、利用者の状態に応じて、家族と話し合 いを持ち、意向を確認している。最初の看取り後には職員 にアンケートを実施して話し合い、2例目の看取り支援に は経験を役立てることができた。家族からは感謝の言葉も 聞かれ、職員の不安を取り除きながらより良い支援ができ よう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルに基づき、急変時には看護師と連携し素早く対応ができるよう努めています。 運営推進会議を利用し救命救急士による訓練を実施し技能を身に付けるための勉強会を行っています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、様々な事態を想定しての訓練を行っています。 本年度は6月に伊予市合同の土砂災害実動訓練を12月には伊方原発停止による避難訓練を実施しました。職員が地域の消防団に所属しており連携を図っています。	
			(外部評価) 年2回、夜間等を想定した避難訓練を実施している。事業所の防火管理者は地域の消防団員を兼ねており、訓練など防災体制に活かされている。訓練では初期消火と利用者の避難誘導を第一に考えて対応できるよう努めている。また、伊方原発の災害を想定した地域の防災訓練に参加し、実際に利用者と一緒に避難場所まで避難をしている。また、緊急時の持ち出しグッズも用意されている。	災害時の地域の協力体制を深めるとともに、緊急連絡網を活用した訓練を実施するなど、職員の防災意識を高める取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者に対する口調・声の大きさに注意し接するように心がけています。各個人の居室などプライバシーの空間を壊すことの無いよう配慮しています。	
			(外部評価) 理念の中にある「人間としての尊厳を大切に」して、利用者一人ひとりの人格を尊重することを職員間が確認し合いながら支援するよう努めている。利用者を人生の先輩として敬意を払い、馴れ合いにならないような話し方にも気をつけ、目立たない心地よい声かけや対応をするよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個々に声掛けを行い、ご本人の希望を確認するようにしています。自己決定の難しい方は、表情や行動を確認するように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) クラフトの作成や家事のお手伝いなどを個々のペースに合わせて、無理強いすることの無いようにして頂いています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 可能な方にはその日の服を選んでいただいています。洋服の汚れに気をつけ、外出時にはおしゃれして出かけられるよう支援しています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その日の食事に使う食材を台所で見つけると、「これ切るんですか？」と自分から声を掛けてくれたり、食事の盛り付けをして頂いたり、可能な方には、配膳・下膳・後片付けまで、ご自分でして頂いています。出来ない方の分も、「代りにやりましょうかあ」と進んで下さっています。 (外部評価) 調理専属の職員がいることで、職員は業務の負担が軽減され利用者のケアに専念できる環境となっている。週2回、利用者と一緒にスーパーに買い物に行き、買い物をしながら献立を考えている。食事は事業所の畑で取れた野菜をメニューに加え、つくしやつわぶき、たけのこなど旬の食材を使用し、季節が感じられるよう工夫している。利用者は食器洗いや台ふきなど、できることの役割をもって手伝いをしている。また、利用者の状態に応じて、さざみ食などの対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 肉・魚・野菜をバランスよく使用し、一人一人の状態に合わせた形態で提供しています。自分で食べる事を重視し様子を見て、介助しています。水分摂取量にも注意しお茶を飲まない方にはジュースに変えて提供するなどの対応をしています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、重傷者は職員が介助し、自立者は本人が口腔ケアを行っています。義歯の方は就寝前に洗浄し清潔を保っています。週に一度、歯ブラシ・コップ等の消毒も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、できる限り失禁を減らせるように支援しています。長期入院によりおむつ対応が当たり前になっていた利用者に声掛け・誘導を続け、トイレでの排泄が可能になった事例があります。	
			(外部評価) 排泄チェック表を利用して、利用者一人ひとりのタイミングで誘導をして、トイレで排泄ができるよう支援している。歩行が難しい場合でも立位が取れる利用者には、トイレで排泄してもらえるよう対応している。オムツを使用していた利用者が、職員がトイレ誘導等を行うことでトイレで排泄できるようになったり、利用者自ら意欲的に排泄できるようになった利用者もいる。尿意のない利用者には、2時間毎にトイレ誘導をしている。職員の丁寧な個別支援が、利用者のスムーズな排泄が行えるよう繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の有無をチェックし看護師の指示のもと対応しています。食材に繊維の多いものを使用したり、毎日適度な運動も取り入れています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日を設定してはおりますが、その日の状態・気分によって日を変えたり、時間をずらしたりして対応しています。同性介護・重症の方にもゆっくりと入浴を楽しんで頂けるよう配慮を心掛けています。	
			(外部評価) 夏場は週3回、冬場は週2回を基本として入浴することができる。職員の見守りのもと入浴し、自立している場合は利用者同士で入浴している。介助が必要な利用者には同性介助での対応をしており、2人体制で安心安全にゆっくりと入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の睡眠の状態の把握に努め、不眠時には精神状態や健康状態を観察し、医師に相談し対応していますが日中の活動を増やすなどして、薬に頼らず、睡眠がとれるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬の情報は個々にファイルし管理しています。状態に変化が見られる時は、看護師に報告し指示を仰ぎ対応しています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食器を洗う人・拭く人・片付ける人や廊下を掃く人・車椅子でモップを掛ける人などと利用者1人ひとりに出来る事で役割を持って頂いています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族と一緒に外出されたり、職員付き添いでお墓参りに出かけたり、地域を散歩したりしています。週に2回スーパーに食材を、利用者と一緒に買いに行ったり、季節ごとに場所を選び外出計画を立てて出かけるようにしています。 (外部評価) 月1回遠出計画を立て、季節を感じられる初詣や菊花展などに出かけられるよう支援している。桜が咲く季節には、利用者は敷地内で花見を楽しんでいる。訪問調査日には、職員と一緒に散歩している利用者に出会え、生き生きとした表情が伺えた。また、外食に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人的にお金を所持されている方は数名ですが、外出先で好きな物を買ったり出来るよう支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族にご協力頂き、状況に応じて手紙・電話のやり取りが出来るようにしています。ご家族の声を聴いて安心されたり、手紙が届くと何度も、読み返されています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関・廊下に季節の花を飾り、リビングには利用者と一緒に作成した季節ごとのクラフト作品を展示しています。お雛様を飾ったり冬には堀コタツを設置するなどして利用者が季節を感じられるよう工夫しています。天気の良い日は、ベランダに出て海を眺めながら、ゆったりした時間を過ごして頂いています。</p> <p>(外部評価) 居間から海の絶景を眺めることができ、日の入りにはきれいな夕日を眺めることもできる。共用空間は開放的に感じられ、季節の移ろいを手に取るように感じることができる。畳スペースは舞台として使用することもでき、いろいろな行事などを一層盛り上げてくれている。季節に応じてお雛様などの飾りつけをしており、壁には午年の一人ひとりの塗り絵や利用者の書いた書道作品も展示している。また、事業所の敷地内にある広い畑では、一年を通し農作物を育てている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共同のリビングは広く設けており、畳式のスペースもあるため、自分の好きなどころで気の合う人同士で、時には一人で過ごせるようになっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所以前より使用していたダンスやお布団を持参して頂いたり、ご本人が作成したクラフト作品をや家族との写真を飾ったりしています。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドやダンスが備え付けられている。居室には本人の使い慣れた物や馴染みの物を持ち込み、利用者一人ひとりの安心できる空間づくりをしている。家族の写真や毎月塗り絵カレンダーが飾られ、仏壇を持ち込む利用者もいる。また、ふとんをリースして使用している利用者もいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 車椅子使用者や歩行器使用者が多いため、廊下の幅を広く設けており、利用者同士の接触が無ように、安全を図っています。個々に口腔用品入れを設置しており自分の物だと分かり易いように工夫をしています。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000063
法人名	有限会社オアシス
事業所名	グループホームぽかぽか(ふたみ)
所在地	伊予市双海町大久保字石の久保甲974-8
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 2 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ホームは家庭の延長」をモットーに利用者が今まで当たり前のようにやっていた家事・掃除・洗濯等続けながら生活が出来るよう、職員は利用者の不可能な部分のみを援助し見守っています。敷地内の畑で野菜を育て、収穫し、調理して食べる。畑仕事の得意な方たちはとても生き生きされています。季節ごとにクラフト作品を作成し展示、ホーム内を飾りつけし、季節感を感じていただいております。地区の文化祭に作品を出展したり、地域の行事に参加させて頂き、地域の方々との交流を持っています。ホームのベランダから眺める海と夕日はとても美しく、恵まれた自然環境の中で、利用者さんはゆったりと穏やかな生活を送られています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海と山の自然に恵まれた高台にある事業所から、優雅な景色やきれいな夕日を眺めることができる。「いつもここにぽかぽか家族」という理念に沿って、ゆったりと住み慣れた地域環境の中で、人としての尊厳を大切に支援している。また、馴染みのスタッフと生活を共にして、利用者には何かの役割をもってもらい、やりがいを感じられるような自立支援に取り組んでいる。調理の専属職員や夜勤に准看護師、畑で農作物を育てる担当職員を置くなど、職員の負担軽減に努めるなど管理者のきめ細かい配慮が伺える。介護計画は、内容や様式、記録方法など改善点を見つけ柔軟に利用者の視点を考え、分かりやすく工夫されている。職員は利用者から知らないことを学んだり、利用者を人生の先輩として敬いながら接しており感謝されることもある。できることはどんなことでも頑張ろうとする管理者は職員からも信頼されており、今後もサービスの質の向上が伺える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームぽかぽか(ふたみ)

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)

氏名 徳田 茂美

評価完了日 平成 26 年 1 月 21 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念に基づき、住み慣れた地域で入所前と変わらない生活を送り続けられることを第一に考え、職員が一丸なって取り組んでいます。</p> <p>(外部評価) 代表者と管理者が中心になり理念を作成している。理念に沿って、利用者に自立が促せるよう、役割やできることが継続できるよう支援している。日中には、利用者がくつろぐ居間のテレビは点けず、一人ひとりに有意義な時間が持てるよう配慮しており、職員は利用者を温かく見守り、待っ心を大切にして支援している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 毎年、地域でのイベント（運動会・文化祭・夏祭り・秋祭り等）に積極的に参加させて頂き、地域の方々とつながりが途絶えぬよう努めています。 また、ホームの行事に地域の方をお招きして交流を深めています。</p> <p>(外部評価) 地元出身の利用者が多く、地域の文化祭や運動会などに参加して交流をしている。職員が地区の道路整備などに参加し、自治会との関係づくりに努めている。管理者と職員は小さなことでもできることから地域との関わりを深めたいと前向きに考え、散歩時に出逢った人や農作業をしている人とあいさつをしている。今では、地域住民が野菜の差し入れをしてくれることもある。また、事業所のそうめん流しや餅つき大会などには、近隣住民に参加を呼びかけ続けている。子供獅子舞や地域のカラオケボランティアなどの訪問もある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方々が気軽にホームに来て頂けるような環境作りに努めています。ホームでの行事に地域の方をご招待し実際に見て頂き理解を深めて頂く機会を設けています。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、なるべく利用者と直接関わりを持てる ような議題に配慮し開催しています。(利用者を家族が一 緒に防災頭巾を作成)また、地域の方々との交流を重視し 意見やアドバイスを頂ける機会とし、運営に活かしていま す。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、社協職員、消防 署員、市担当者等の参加を得て開催している。職員が多く 参加しており、会議の役割分担をしている。会議では、防 災訓練や防災頭巾の作成、成年後見制度の勉強会、そうめ ん流しなどを一緒に開催する工夫をしている。家族の参加 も多く、事業所の様子が参加者に分かるように工夫をして いる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議等にご出席頂き、ホームの活動を報告し意見 やアドバイスを頂いています。必要時には連絡を取り、相 談するなどしています。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報告や 意見交換をしている。市の福祉課や長寿介護課、地域包括 支援センターの職員と相談しながら、事業所の課題解決の ために助言をもらっている。今後、利用者の成年後見制度 の申し立てのため協力をお願いする予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ホームは身体拘束排除宣言を掲げ取り組んでいます。 内部研修のテーマに取り上げ、職員の理解を深めていま す。	
			(外部評価) 玄関に「身体拘束排除宣言」を掲げ、勉強会や話し合いを 行い、職員全員で理解して身体拘束をしないケアに組み 組んでいる。日中には玄関を開放し、夜間のみ防犯面を考え 施錠している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 内部・外部の研修への参加を促し、学ぶ機会を作っています。職員同士で注意観察をしあい、防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 司法書士の先生を招き勉強会を開催したり、学ぶ機会を作っているが、内容が難しく職員の理解度は不十分である。引き続き継続して行きたい。必要時には、関係機関との連携を図り、活用して行くように努めます。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族・ご本人を交え十分な時間を確保し、聞き取り・説明を行うよう努めています。改定等があった場合は、きちんと説明した上で、同意を得るようにしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会の設置はないが、運営推進会議に出席頂いたり面会時に声掛けをし、要望・意見を伺うようにしています。意見・要望は運営に活かせるよう努めています。 (外部評価) 面会時や電話で家族に声かけをし意見を聞くように努めている。介護保険制度の改正など利用料金の改定時に、家族へ送付した文書への問い合わせがあったことがある。日々の生活の中で利用者から意見を聞くよう努めているが、ほとんど意見はない。また、家族にはぽかぽか通信や手紙を送付し、事業所での利用者の様子を報告している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) スタッフ会等を利用し、職員からの意見や提案を聞く機会を設けています。又、普段から気軽に個々が相談・提案のしやすい雰囲気作りに努めています。職員からの意見等は運営に反映させています。</p> <p>(外部評価) 2か月に1回、法人内の別のグループホーム職員と合同でスタッフ会を開催しており、職員は意見や要望、気づきやアイデアを伝えることができる。日頃から管理者は職員が話しやすい雰囲気づくりをしている。職員から出された意見は、運営に反映できるよう努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の資格取得に協力し、働きやすく学びやすい勤務体制に努めています。職員の努力により給与の見直しも検討している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員の資格取得に協力し、研修等への参加も促している。しかし、本年度は外部研修への参加が出来ていない。毎月、内部研修を行ない知識向上を図っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 同地区の施設での行事に参加させていただき、活動内容を学ばせて頂いたりしています。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前に本人・家族より不安・要望を聞き取り、入居後も、利用者の声に耳を傾け、何でも話して頂けるような、関係が築けるように努めています。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時や面会時に、ご家族から要望・意見を伺ったり機会があるごとに耳を傾けるように努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前の医療関係者・ケアマネ・担当看護師等からの情報をもとに、家族等を交え担当者会議を開催し、今必要としている支援を見極めるようにしています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の能力を尊重し、不可能な部分のみ援助する。「ホームは家庭の延長である」の考えを重視し毎日の生活を支援しています。利用者同士で助け合う場面も見られ、良い関係が築かれています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 不穏時の電話対応や・気分転換に外出し共に過ごして頂いたり、かかりつけ医の受診等の協力をお願いしています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 積極的に地元の方が集まる行事に参加させて頂き、地域住民・顔なじみの方々との交流が途絶えないように支援しています。 (外部評価) 地元出身の利用者が多く、地域の運動会や同地域にある特別養護老人ホームの納涼祭などの行事に参加し知人と出会うよう支援している。友人や知人等が面会しやすいよう快い対応をしている。高齢者を対象とした公民館の教室などに参加し、新しい馴染みの関係もできている。家族の協力も得ながら馴染みの場所や関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の人間関係を把握し、問題があれば席替えを行ったりしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も必要に応じて連絡を取り、相談して頂けるようにしています。長期入院により退所された方には、再入所の検討も行っています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人・家族から個々の思いや暮らし方を聞き取り、日々の会話にも声に耳を傾け、希望や意向を聞き取るように努めています。得た情報は職員間で共有しケアに活かしています。	
			(外部評価) 利用開始時に利用者や家族から思いや意向を聞いている。日々の会話の中で利用者から思いや意向を把握するよう努めており、利用者と1対1となる居室や入浴時等に、「外出したい」などの希望を言われることが多い。利用者の希望に応えられるよう些細なことでも把握に努め、利用者にとってより良い方法を職員間で検討し取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族等から得た情報を基に、日々ケアをしていく中で確認し、希望通りの暮らし方が出来ているか・サービス内容は適切かなどを担当者会議にて話し合うようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 状態の変化や新しく気づいたことなどが、職員間で情報交換が出来ている。介護記録やモニタリングにも記入されており、現状の把握にもケアプランの見直しにも反映されています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族の意向を確認し、計画作成担当者・ケアマネ・看護師・担当職員がそれぞれ意見を出し合い、話し合い介護計画を立てている。介護担当者を交えモニタリングを行い、現状に応じた介護計画を作成しています。	
			(外部評価) 家族の意向を反映して、介護支援専門員が職員と話し合い介護計画を作成し、家族に確認し同意を得ている。利用者毎の担当者が毎日計画の実施状況を分かりやすく記録し、月1回職員会議でモニタリングを実施している。6か月に1回、カンファレンスを実施し見直しをしている。また、状態の変化時には、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の普段と違う行動や、気づき、サービスを実施しての結果・様子等を記録し、介護計画の見直しに活かしています。情報は申し送りノートを利用し全員が共有できるようにしています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の個々の能力に合わせて、共通サービスの日課に沿って生活して頂いています。新たな問題が出た時には、その都度、職員間で話し合いケアに取り組んでいます。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地元在住の職員が多く勤務しており、地域で行われる行事の情報は常に入手できる。ホーム以外での活動の場を提供し地域と触れ合いながら豊かな生活が築けるよう支援しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 嘱託医の往診は月2回・必要時に歯科医の往診を依頼、外 科等の受診は利用者それぞれのかかりつけ医を家族の協力 のもと行っています。急変時には嘱託医に報告し適切な医 療が受けられるよう支援しています。</p> <p>(外部評価) 利用開始時に利用者や家族に説明し、協力医がかかりつけ 医となっている。月2回協力医の往診があり、利用者の健 康管理をするほか、急変時にも対応できる協力体制が整っ ている。専門医の受診は家族の協力を得ているが、必要に 応じて看護師が同行している。また、必要に応じて歯科医 が往診して対応している。精神的に落ち込んでいる利用者 には専門医を受診するほか、家族に面会してもらうようお 願いし表情が一段と良くなる場合もある。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 看護師は24時間オンコール体制をとっており、昼夜間わ ず、急変時に対応できるようにしています。異常を感じた 時にはすぐに看護師に状態報告し看護師の指示のもと、適 切な受診・看護が受けられる体制を整えています。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 介護支援専門員・看護師を中心に、医療機関との連携を図 り、情報交換を行っている。入院中は電話や面会し病状確 認を行っている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化・終末期の意向等を確認し、書面にしている。 日常的に、心身状況・精神状況等に変化が生じた時はご家 族に対し細やかな報告・説明を行っている。現在対象者は おりませんが、関係者との連携を図り、取り組んでいき たい。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する基本指針を作成しており、利用開始前に家 族の希望があれば看取り支援をすることを説明している。 今までに2人の看取り支援を経験しており、終末期には看 護師と管理者が交互に夜勤をするなど、職員の負担軽減に 努めている。また、利用者の状態に応じて、家族と話し合 いを持ち、意向を確認している。最初の看取り後には職員 にアンケートを実施して話し合い、2例目の看取り支援に は経験を役立てることができた。家族からは感謝の言葉も 聞かれ、職員の不安を取り除きながらより良い支援ができ るよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルに基づき、急変時には看護師と連携し素早く対応ができるよう努めています。運営推進会議を利用し救命救急士による訓練を実施し技能を身に付けるための勉強会を行っています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に二回、様々な事態を想定しての訓練を行っています。本年度は6月に伊予市合同の土砂災害実動訓練を12月には伊方原発停止による避難訓練を実施しました。職員が地域の消防団に所属しており連携を図っています。	
			(外部評価) 年2回、夜間等を想定した避難訓練を実施している。事業所の防火管理者は地域の消防団員を兼ねており、訓練など防災体制に活かされている。訓練では初期消火と利用者の避難誘導を第一に考えて対応できるよう努めている。また、伊方原発の災害を想定した地域の防災訓練に参加し、実際に利用者と一緒に避難場所まで避難をしている。また、緊急時の持ち出しグッズも用意されている。	災害時の地域の協力体制を深めるとともに、緊急連絡網を活用した訓練を実施するなど、職員の防災意識を高める取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者に対する口調・声の大きさに注意し接するように心がけています。各個人の居室などプライバシーの空間を壊すことの無いよう配慮しています。	
			(外部評価) 理念の中にある「人間としての尊厳を大切に」して、利用者一人ひとりの人格を尊重することを職員間が確認し合いながら支援するよう努めている。利用者を人生の先輩として敬意を払い、馴れ合いにならないような話し方にも気をつけ、目立たない心地よい声かけや対応をするよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己主張の可能な方が多く、本人による自己決定ができています。 おとなしい性格の方には、声掛けを多くし、表情等の観察をしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者個々に確認しながら、作業等の声掛けを行って本人のペースでやって頂いている。無理強いはしないように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一部の利用者は自分の行きつけの美容院を利用している。外出時には季節にあった洋服を選び、オシャレ着に着替え、お化粧品をして出かける方もいます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その日使用する野菜の皮を剥く人・切る人・盛り付ける人など出来る事をして頂いています。個々で配膳・下膳・後片付けまでをお願いしています。ワイワイと楽しそうにお話をされながら、作業をされています。 (外部評価) 調理専属の職員がいることで、職員は業務の負担が軽減され利用者のケアに専念できる環境となっている。週2回、利用者と一緒にスーパーに買い物に行き、買い物をしながら献立を考えている。食事は事業所の畑で取れた野菜をメニューに加え、つくしやつわぶき、たけのこなど旬の食材を使用し、季節が感じられるよう工夫している。利用者は食器洗いや台ふきなど、できることの役割をもって手伝いをしている。また、利用者の状態に応じて、さざみ食などの対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の食事量・形態を把握し提供しています。いつでも好きな時にお茶が飲めるように準備しており水分が不足しがちな方には声掛けを行ったり、ジュース等に変えるなどして摂取して頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアの声掛けを行い、毎晩就寝前には、義歯の洗浄・除菌を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を利用し、確認しながら定期的に声かけ・誘導を行っています。	
			(外部評価) 排泄チェック表を利用して、利用者一人ひとりのタイミングで誘導をして、トイレで排泄ができるよう支援している。歩行が難しい場合でも立位が取れる利用者には、トイレで排泄してもらえるよう対応している。オムツを使用していた利用者が、職員がトイレ誘導等を行うことでトイレで排泄できるようになったり、利用者自ら意欲的に排泄できるようになった利用者もいる。尿意のない利用者には、2時間毎にトイレ誘導をしている。職員の丁寧な個別支援が、利用者のスムーズな排泄が行えるよう繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の有無をチェックし看護師の指示のもと対応しています。食材に繊維の多いものを使用したり、毎日適度な運動も取り入れています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日を設定してはおりますが、その日の状態・気分によって日を変えたり、時間をずらしたりして対応しています。同性介護・重症の方にもゆっくりと入浴を楽しんで頂けるよう配慮を心掛けています。	
			(外部評価) 夏場は週3回、冬場は週2回を基本として入浴することができる。職員の見守りのもと入浴し、自立している場合は利用者同士で入浴している。介助が必要な利用者には同性介助での対応をしており、2人体制で安心安全にゆっくりと入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼食後、自由に居室で休める時間を作っています。夕食後も、好きな時間に居室に入って頂き、TVを見たり、本を読んだりしゆったりと過ごして頂いています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬の情報は個々にファイルし管理しています。状態に変化が見られる時は、看護師に報告し指示を仰ぎ対応しています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の得意な分野で、それぞれに役割を持って頂いています。外出を楽しみにしている方が多く、週2回の買い物に同行して頂くなどしています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族と一緒に外出されたり、職員付き添いでお墓参りに出かけたり、地域を散歩したりしています。週に2回スーパーに食材を、利用者と一緒に買いに行ったり、季節ごとに場所を選び外出計画を立てて出かけるようにしています。 (外部評価) 月1回遠出計画を立て、季節を感じられる初詣や菊花展などに出かけられるよう支援している。桜が咲く季節には、利用者は敷地内で花見を楽しんでいる。訪問調査日には、職員と一緒に散歩している利用者に出会え、生き生きとした表情が伺えた。また、外食に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 何名かはお金を所持されており、職員同行で買い物に出かけ、生活用品・お菓子などが購入できるよう支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族からの届け物にお礼の手紙を書いたり、電話を掛けて頂いています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関・廊下に季節の花を飾り、リビングには利用者と一緒に作成した季節ごとのクラフト作品を展示しています。お雛様を飾ったり冬には堀コタツを設置するなどして利用者が季節を感じられるよう工夫しています。 天気の良い日は、ベランダに出て海を眺めながら、ゆったりした時間を過ごして頂いています。	
			(外部評価) 居間から海の絶景を眺めることができ、日の入りにはきれいな夕日を眺めることもできる。共用空間は開放的に感じられ、季節の移ろいを手に取るように感じることができ、畳スペースは舞台として使用することもでき、いろいろな行事などを一層盛り上げてくれている。季節に応じたお雛様などの飾りつけをしており、壁には午年の一人ひとりの塗り絵や利用者の書いた書道作品も展示している。また、事業所の敷地内にある広い畑では、一年を通し農作物を育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールの座席は気の合う方々を一緒にしています。 廊下に置いているソファやリビングの座敷で、思い思いに過ごせるようにしています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所以前より使用していたタンスやお布団を持参して頂いたり、ご本人が作成したクラフト作品をや家族との写真を飾ったりしています。外出時に購入したお花を飾ったりされています。	
			(外部評価) 居室はベッドやタンスが備え付けられている。居室には本人の使い慣れた物や馴染みの物を持ち込み、利用者一人ひとりの安心できる空間づくりをしている。家族の写真や毎月塗り絵カレンダーが飾られ、仏壇を持ち込む利用者もいる。また、ふとんをリースして使用している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者個々に、口腔用品入れを準備しており、自分の物だと分かり易いように工夫しています。ユニット間がつながっている為、自分のユニット（部屋）を間違える方が、いらっしゃるため、居室のネームを大きくしたり、声掛け・誘導を行っています。	